

「全国栄養経営士のつどい大阪大会」実践報告審査委員長に聞く

地域の支部活動をリードする 栄養経営士の誕生に期待

3月に開催された第4回「全国栄養経営士のつどい」では、表彰制度が新たに導入され、栄養経営士による実践報告の枠が6名に拡大された。報告の内容も多岐にわたったり、大きな注目を集めた。

同大会で審査委員長を務めた日本栄養経営実践協会監事の古畑公氏に、実践報告の総括とこれからの期待についてお話を伺った。

レベルの高い発表が 協会の活性化に

今大会から栄養経営士の皆様の実践報告に

対して審査を導入し、表彰するという形になりました。これは前回の札幌大会の後、役員の先生方から「これだけ素晴らしい発表をしていくべきではないか」という意見があり、全員一致で決めたものです。このことが少しでも皆様の励みになり、「自分もやってみようか」という方の増加につながればという想いもありました。今大会の6名の発表を聞いて、プレゼンの内容はもちろん発表の構成や流れなども非常にレベルが高く、今後さらに盛り上がるという期待を持つかという期待を持つ

ことができました。発表いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。

今大会のテーマが「地域包括ケア時代が求める栄養経営士の役割と活動」ということもあり、地域における活動やネットワークの広がりを感ぜられる内容の発表が受賞しました。しかし、受賞しなかった発表が劣っていたということではありません。たとえば大阪府明館病院長の笠舞和宏さんは、薬剤費と栄養剤の価格を具体的に提示して比較しながら、病院にとってどれだけのメリットがあるのかという部分を数字に基づいて考察されており、まさに「栄養経営士」のひとつのあり方ではないかと思われました。審査委員の先生方も同意見であり、特別に吉

田貞夫先生から賞を授与していただくことになりましたが、非常に価値のある発表であったと考えています。

発表するテーマを決めて、そのテーマに沿って内容をまとめ、プレゼンテーションによって多くの方に伝える。この一連の流れをやり遂げるには、相当な能力が必要です。こういった経験を積み上げていくことは、自分自身の成長に向けた大きな糧になるはずです。

降にまた発表していただくのもよいでしょう。審査委員から新たな視点を提供するという点とも検討したいと考えています。次のトライアルをどのように行うのか、ぜひ続きを聞かせていただきたいと思います。

また、今回の受賞者では、最優秀賞を受賞されたてんかん専門病院ベールテルの勝山祥子さんは東北、優秀賞の谷田病院の福島宏美さんは九州の会員の方でした。当協会では全国各地に地域支部を設けていますが、今回発表された方には、ぜひそれぞれの支部でその経験を伝え、これからの支部活動をリードしていく存在になることを期待しています。



一般社団法人日本栄養経営実践協会監事
 「全国栄養経営士のつどい大阪大会」審査委員長
 古畑 公氏

支部活動がさらに活発になつていけば、そこから「自分も発表したい」という方も出てくるでしょう。大会のさらなる活性化にもつながりますし、地域における人材育成という観点でも非常に大きな意味を持ちます。

協会としてもそうした皆様の活動をバックアップしてまいります。栄養経営士の活動の拡大と活性化に向けて、共に盛り上げていきましょう。

「自分もやってみようか」という方の増加につながればという想いもありました。今大会の6名の発表を聞いて、プレゼンの内容はもちろん発表の構成や流れなども非常にレベルが高く、今後さらに盛り上がるという期待を持つ

ことができました。発表いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。

田貞夫先生から賞を授与していただくことになりましたが、非常に価値のある発表であったと考えています。

降にまた発表していただくのもよいでしょう。審査委員から新たな視点を提供するという点とも検討したいと考えています。

支部活動がさらに活発になつていけば、そこから「自分も発表したい」という方も出てくるでしょう。大会のさらなる活性化にもつながりますし、地域における人材育成という観点でも非常に大きな意味を持ちます。



最優秀賞を受賞したてんかん専門病院ベールテル栄養科の勝山祥子さんの実践報告

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催 **10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう!**

第8回 「**栄養経営士**」 2019年6月9日(日) 資格認定試験

- 受験料：8,000円(税込)
- 試験会場(予定)：札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
- 受験資格：管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習はDVD視聴による受講も可能です! 3枚組・特典映像「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは 検索

栄養経営士の現場クローズアップシリーズ 特別編 医療法人社団光生会 平川病院

複数の栄養経営士が在籍し、連携しながら働く病院・施設を紹介している当シリーズ。今回は特別に「多職種と連携している栄養経営士の取り組み」と「雑誌の取材現場」をご紹介します。登場していただくのは、医療法人社団光生会平川病院 栄養科主任の田中康之さんです。

主任の辞令を機に業務を「選択と集中」

平川病院は東京都八王子市にある精神科病院で、307床の精神科床と36床の療養病棟を有しています。給食は直営で、栄養科は管理栄養士6人、栄養士14人、調理師6人、調理員4人で総勢30人。管理栄養士はそれぞれが担当病棟を持ち、毎日病



退院予定の患者さんについて内科医の土井淳先生と話す田中さん

最初に「今の自分に求めるものがあるのでは」と栄養経営士資格認定基礎講習に参加、資格取得後に病棟業務マネジメントへの取り組みをはじめました。

最初は「多職種と連携しながら働く病院・施設を紹介している当シリーズ。今回は特別に「多職種と連携している栄養経営士の取り組み」と「雑誌の取材現場」をご紹介します。登場していただくのは、医療法人社団光生会平川病院 栄養科主任の田中康之さんです。

補給食品の採用増、食事療養費がアップ。田中さんが主任になった当時、栄養科で扱っていた栄養補助食品と経腸栄養剤はともに3種ずつしかなく、患者さんの状態やリハビリを念頭に置いたときめ細やかな栄養ケアが難しかったそうです。そこで、田中さんは自分で必要だと思ふものを厳選、NSTカンファレンスでグローバルコストを考えたプレゼンを実施して、希望を通しました。現在、平川病院では栄養補助食品14種と経腸栄養剤7種が採用されています。

採用点数が増え、食料コストは上がったものの、管理栄養士による栄養補助食品と経腸栄養剤の適正使用で患者さんの栄養状態が改善。絶食患者が減って入院時食事療養費が増え、トータルコストとして年間75万円の削減になりました。医師からの信頼も得た今では、食事変更や食事せんの代行入力まで栄養科で受け持っていると言います。

医療法人社団光生会
平川病院 栄養科 主任
たなか やすゆき
田中 康之さん

こうした取材ははじめてで緊張しましたが、病棟での取り組みをアピールでき、またチーム医療について院外にも知ってもらえる良い機会になりました。取り組みの認知が広がることで、もっと管理栄養士が必要なのだという声が増えてくれると良いと思います。

今日、院内の多職種の方々が取材されているのを横で聞き、本当に栄養について考えてくださっているのだと実感しました。おかげで私はとても仕事がしやすいのですが、そうした環境をつくり出せるかどうかは、管理栄養士が病棟に出て、多職種とどれだけコミュニケーションが取れているにかかっているのではないかと思います。

精神科領域では診療報酬があまり取れないこともあり、管理栄養士が病棟に出ているケースは少ないようです。しかし、だからこそ、病棟業務マネジメントをしっかり行い、自分が問題だと思っている点に、勇気を出して一歩を踏み出すことが大切だと思います。そして、それを成功させるには多職種とのコミュニケーションが欠かせませんが、それには自分に自信を持つことが必要です。

皆さんもぜひ、何かひとつ誇れるものを持って、病棟に出てみてください。



認知症病棟の師長さん、看護師さんと打ち合わせ

病院概要

医療法人社団光生会 平川病院
東京都八王子市美山町1076
042-651-3131(代)
<http://www.hirakawa.or.jp/>
診療科目：4科
許可病床数：精神病床 307床
療養病床 36床

事務局は見た 雑誌取材レポート

今回紹介した田中さんの取り組みが『栄養経営エキスパート』（日本医療企画）に掲載されることになり、その取材に協会事務局も同行させていただきました。当日は、平川病院で共に働く理学療法士の田川勉さんの取材からスタートしました。まずはカメラマンさんが撮影のセッティングをして、準備ができたところで取材開始。編集さんが田中さんと栄養科との協働について質問していきます、それに答えているところを写真に収めています。



取材を受ける院長の平川淳一先生と田中さん

1本目の取材が終わると、次は院長の平川淳一先生の取材がはじまりました。同じく撮影を行いながら、平川病院の沿革や院内での栄養科の位置づけ、院長から見た栄養科についてなどをうかがいました。取材を2本終えたあとは病棟に移動し、ナースステーションでいつも行っているカンファレンスの撮影です。田中さんは毎日病棟に出ていることもあり、カンファレンス自体は10分ほどで終了。ここではNSTの取りまとめ役でもある内科の土井淳先生にお話をうかがいました。

ナースステーションでの撮影風景

次は田中さんが担当する認知症病棟に移り、師長さんをはじめとする看護師さんたちとの打ち合わせ風景を撮影しました。はじめ、師長さんが不在でつかまらないというハプニングがあったものの、撮影は無事に終了。最後は別室に移動して、田中さんの個人インタビューです。いろいろとお話をうかがうなかで、田中さんが管理栄養士という仕事にかけている情熱や、向上心を強く感じました。こうした姿勢が、前述の記事で紹介したような結果を生み出したのだと思います。



上の写真はこうして撮影しました

今後も、栄養経営士を取り上げる企画等で皆様の元に取材依頼が届くことがあるかと思います。そのときには、ぜひご協力のほど、よろしくお願いいたします！

支部NEWS

東海支部

【東海支部】セミナーレポート

管理栄養士の視点で考えるチーム医療の運営課題や現状とは

第2回管理栄養士スキルアップセミナー 「チーム医療における管理栄養士の役割」

日本栄養経営実践協会東海支部は3月9日(土)、「チーム医療における管理栄養士の役割」をテーマとした支部主催の第2回「管理栄養士スキルアップセミナー」を開催しました。今回のセミナーでは、管理栄養士の立場で考えるチーム医療の運営や課題を、総合病院と急性期単科病院の管理栄養士がそれぞれの視点から講演。講演者と参加者とのディスカッションも交え、管理栄養士の立場や役割の重要性について理解を深めました。

患者一人ひとりのサポートと業務の効率化を多職種連携で実現していく仕組みづくりを

第1講演では、総合病院の管理栄養士である東海支部理事の穂山直美氏(松波総合病院)が「管理栄養士から見たチーム医療の現状と課題」と題し登壇。院内のチーム医療と、2003年に立ち上げたNST(栄養サポートチーム)の運営、NST専従としての仕事について説明しました。

同院のNSTについて、穂山理事は「基本的な栄養部分はみんなで共有し、各職種が専門性を乗せていくことで、均一で質の良いNSTにしていこう」という考え方がベースになっていると紹介。入院時から退院まで継続的に栄養サポートを行うことを目標とし、各職種が一丸となって活動している現状を伝えました。

NSTの回診については見直しをかけ、以前はスタッフ全員がナースステーションに集まってカンファレンス・回診を行っていたものを、患者ごとにカンファレンス時間を決めてスタッフが集合し、医師や薬剤師、リハビリスタッフ、看護師らでベッドサイドを回っていく方式に変更。患者へのサポートと日々の業務の両立のため「参加スタッフの仕事の効率化や環境整備を第一に考え

て、多職種連携によるチーム医療を行っている」とし、患者一人ひとりに対応していくための仕組みづくりや、効率的に動くためのチームワークの必要性を強調しました。

NSTの活動をさらに進めるため、今後は入院センターとの連携をさらに強化し、「入院前～入院初期に、速やかに栄養介入できるシステムを確立すること」や、連携施設との情報提供で「退院後の経過を追えるような仕組みづくり」を行っていきたくと語りました。また、何よりも重要なこととして「管理栄養士としてのスキルアップが必要。全員が一定のレベルで患者の栄養管理に介入できるよう、日々努力することが肝心」と話し、講演を結びました。

栄養介入の漏れとダブリを防ぐために情報共有ツールの構築が有効

第2講演では、急性期単科病院の管理栄養士であり、同じく東海支部理事の島田晶子氏(名古屋ハートセンター)が「多職種協働でのチームアプローチ」と題して話しました。同院では、心臓リハビリテーションチームや心不全チームなど5つの部門に分かれて多職種協働を行っており、このなかで管理栄養士がいつどのように介入していくかを紹介。超急性期の病院で平均入院日数は7日前後と短いため、NST活動は行っていないものの、積極的に栄養介入を実施しており、栄養評価も導入しています。

島田理事は栄養介入のポイントとして「漏れが無いこと、ダブリが無いことが一番重要」と指摘しました。漏れを無くすために、介入手順の統一(プロトコルの作成)と朝・夕のミーティングによる徹底した情報共有を行っているとのこと。ま

た、ダブリを無くすために患者の情報管理用のデータベースを構築し、デジタルデータと紙ベースの両面で活用していることを紹介しました。「プロトコルにより介入ポイントがわかり、的確な評価や情報収集が可能になった。そして、データベースにより患者管理の環境が整い、誰がいつ介入したかが明確になり、重複することがなくなった。さらには、それが多職種との情報共有にも繋がっている」とし、参加者に情報共有ツールの構築を推奨しました。

また、管理栄養士にありがちなこととして「カンファレンスで何を言っているのか理解できない。栄養士がいなくてで栄養内容が決まっている。介入のエビデンスが少ない」といったことを挙げました。解決方法としては、管理栄養士として知識不足にならないためにも、日常臨床の疑問を放置しないこと、解剖学・病態の知識なども身につけることや、参考書や学会誌などの文献を読むこと、以前読んだ文献の再読などが必要とアドバイスを行いました。

最後に「出来る人とできない人の差は、実践しているかどうかの違い。実践がやがて習慣になる」と、管理栄養士としての学習や努力を怠らなことが必要と参加者に呼びかけ、講演を締めくくりました。



理事による講演のあとは、参加者を交えてディスカッションも行われた

ともに学び、ともに考え、ともに成長する“石井ゼミ” in東北 採用される企画を提案しよう!

- ◎誰も損をしないし、みんなにプラスになる企画なのになぜか意図を理解してもらえない
 - ◎面白い企画だったが、会議を重ねるごとにありきたりな内容になってしまう
 - ◎企画書は通ったけど誰も動いてくれない
 - ◎そもそも企画が思い浮かばない …etc
- そんな悩みを解決する力を身につけて、自らの企画で病院を動かせる人材になろう!



講師 石井富美氏
いしいふみ ●多摩大学医療・介護ソリューション研究所 副所長
経営情報学修士(MBA)。医療情報技師、医療メディアーター。民間企業でソフトウェア開発のSEとして勤務した後、社会福祉法人に入職、情報システム室などを経て経営企画室長に就任後は新規事業の企画、人材育成などに携わった。2011年より多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー、2019年4月より現職。

第1回 5月11日(土)【情報収集・分析】

▼問題・課題の発見 **終了しました**
▼市場分析(データ活用による課題抽出と分析)

第2回 7月13日(土)【企画・提案】

▼新規事業企画、業務改善提案など
～課題解決のアイデアを練る・ストーリーの作成・戦略立案・予算組み立て、多職種との合意形成～

第3回 9月7日(土)【実践】&【講義】

▼模擬プレゼン(部門長・医療職へ提案)、質疑応答、石井先生による総評
▼まとめ ～医療・介護福祉政策の動向、経営人材の役割と求められるスキル・力について～

時間 14:00～17:00(各回共通)(終了後、懇親会を行います ※会費:4,000円程度)

定員 30名(先着順)

会場 PARM-CITY131 貸会議室(仙台市青葉区一番町3-1-16/JR仙台駅徒歩約11分)

受講料 会員・定期:1回 **5,000円**

一般:1回 **10,000円**

※会員とは下記共催団体いずれかの会員のことを指します

※会員の方が所属先の非会員を連れてくる場合、会員価格となります

※定期は、雑誌(『月刊医療経営』「フェイス・スリー」『クリニックばんぼう』)の定期購読者を指します

共催 株式会社日本医療企画/日本医療経営実践協会東北支部/日本介護福祉経営人材教育協会東北支部/日本栄養経営実践協会関東支部東北支局

お問合せ 日本医療企画 東北支社
担当:三浦・浅石 TEL:022-281-8536

栄養経営士が知っておきたい!

イベント 情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

関東支部

“理論”と“実践”で提案力・対話力を 高めて現場を動かせる人材になろう!

病院の経営部門のスタッフが何を考えていて、どうアプローチすれば提案が通るのか、またメディカルスタッフが経営部門とうまくコミュニケーションを取るにはどうすれば良いかなどを理論と実践の両面から学びます。

- 日 程：〈理論編〉2019年6月1日(土) 14:30~15:30
〈実践編〉2019年6月15日(土) 14:30~15:30
- 講 師：石井富美氏(多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長)
- 参加費(税込)：【会員】全2回3,000円、各回2,000円
【一般】全2回5,000円、各回3,000円
- 会 場：日本医療企画セミナールーム(千代田区神田岩本町4-14神田平成ビル5階)
- 定 員：30名(先着順)
- お問い合わせ：株式会社日本医療企画 関東支社(担当:平山)
TEL:03-3256-2885

学会情報

第61回日本老年医学会学術集会

「老年医学研究のフロンティア—超高齢社会への処方箋を探る—」をテーマに仙台で開催されます。ジョイントシンポジウムでは日本認知症予防学会や日本リハビリテーション医学会、日本在宅医学会等とのジョイントも予定されています。

- 日 程：2019年6月6日(木)・7日(金)・8日(土)
- プログラム：会長講演、特別講演、海外招請講演、教育講演、シンポジウム、特別提言等を予定
- 参加費：12,000円(当日受付のみ)
- 会 場：仙台国際センター(宮城県仙台市青葉区青葉山無番地)
東北大学百周年記念会館(宮城県仙台市青葉区川内40)
- お問い合わせ：第61回日本老年医学会学術集会 運営事務局
日本コンベンションサービス株式会社 東北支社
TEL: 022-722-1311

協会事務局より

2019年8月期限の会員の皆さまへ 【年会費納入および資格更新のご案内】

本年8月に年度会費・会員資格の有効期限を迎える会員の皆さまに、当協会より、年度会費納入および資格更新のご案内を5月中旬に郵送いたします。

ご確認およびお手続きのほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

- 対 象 者：年度会費・会員資格の有効期限が「2019年8月19日」の個人正会員、栄養経営サポーター
- 年度会費：【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
- 資格更新：【個人正会員】15,000円(年度会費込み)
※申請書類・課題をご提出ください。
【栄養経営サポーター】13,000円(年度会費込み)
- 支払期限：7月19日までに指定口座へ振込
- お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会
TEL:03-5289-7021

学会情報

第68回日本アレルギー学会学術大会

「アレルギー学の原点を見つめ、未来を創造する～新化・深化・進化～」をテーマに、今大会では診療科横断的なチーム医療を討議の中心として開催されます。

- 日 程：2019年6月14日(金)・15日(土)・16日(日)
- プログラム：会長講演、特別講演、招請講演、教育講演、シンポジウム、会長企画、市民公開講座等を予定
- 参加費：【メディカルスタッフ】5,000円 【医師】15,000円
(ともに当日受付のみ)
- 会 場：東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内3丁目5-1)
- お問い合わせ：第68回日本アレルギー学会学術大会 運営事務局
株式会社コンベンションリンケージ内
TEL:03-3263-8688

「栄養経営士」資格認定基礎講習

資格認定試験の受験前に、「栄養経営」という考え方を理解するために受講いただく講習です。本講習の受講が、栄養経営士資格認定試験の受験要件となります。

DVD視聴による受講も可能!

☆3枚組、特典映像付き☆

栄養経営士も会員価格で受講できます!

【こんな方におすすめ】

- ・DVD受講だったので、会場受講をしてみたい
- ・栄養経営士の方向性を、改めて確認したい
- ・栄養経営士として、もう一度、話を聞きたい ……

講習内容

オリエンテーション.

「栄養経営士」に必要な能力について

1. 院内・施設内における栄養部門の現状分析
2. 目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
3. 業務の質を高めるためのアウトカム分析
4. 「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
5. 適材適所の組織マネジメント
6. 病能の把握能力

- 講 師：宮澤 靖 代表理事ほか
- 受講料(会場、DVDとも)：8,000円(税込)
- 時 間：10:00~17:00(予定)

2019年度 日程決定!

会 場	日 程
東 京	終了しました 日(土)
名古屋	6月2日(日)
大 阪	7月7日(日)
仙 台	9月1日(日)
帯 広	9月15日(日)
福 岡	9月22日(日)